



南海トラフ地震・津波から 地域の支え合いで命を守る！ ～個別避難計画作成から生まれる支援の輪～

鹿児島県西之表市下西校区防災会
会長 西村 俊夫



1 団体の概要

下西校区は、種子島の鹿児島県西之表市の市街地に隣接する地域です。人口は約2,000名で、川迎、池野、壺泊、上石寺、下石寺、鞍勇、若宮の7地域から成っています。沿岸部には漁業集落が多く形成されており、南海トラフ地震や種子島東方沖地震による地震・津波災害への対策が課題となっています。なお、西之表市は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されています。

2 背景

本会は、平成28年から防災倉庫整備、非常食や避難所備品の整備を行ってきました。令和元年度に下西校区に集落支援員が就任して以来、支え合い・防災マップ作成、救急医療情報キットの普及促進など、医療・福祉分野と連携した防災活動に取り組んでいます。

本会には津波浸水区域内に居住する避難行動要支援者（要支援者）が10名おり、自力避難に不安を抱えているため、地域住民による避難

支援が課題でありました。

このような中、「地震・津波防災訓練（内閣府・令和5年度）」のモデル地域となり防災訓練を実施することとなりました。

3 取組内容

「地震・津波防災訓練」では、津波浸水区域に住む要支援者の住家測量、支え合い・マップ作成、南海トラフ地震臨時情報発表に伴う早期避難訓練、津波避難訓練、安否確認訓練、炊出訓練等を行いました。特に安否確認訓練では、避難したことの意思表示として、「白いタオル」を道路等から見やすいところに掲げることに取り組みました。

それらの訓練の反省を踏まえ、地区防災計画の見直し、個別避難計画作成に取り組んでいます。



支え合い防災マップ



地域支援者による移動支援



消防分団による避難支援

4 成果と課題

避難する際、道路から見やすいところに「白いタオル」を掲げる取り組みを行い、自主防災組織や消防分団による安否確認がスムーズにできるようになりました。

個別避難計画の作成については、住宅の標高や構造、支援者の体力に応じた避難方法の検討、ケアプラン内容の反映等を行うことで、より実践的なツールとなりました。

一方で、避難行動要支援者自身（その家族）に、実際の災害では支援者が来れないかもしれないので、「助けてもらう」のではなく「自力で助かる」という意識を持た

せることが難しかったところでした。

また、避難支援者への責任をどこまで課すか、という点については、引き続き当事者間で協議が必要であると感じています。

個別避難計画の作成を通じて、要支援者自身が事前にすべきこと、地域支援者ができること・できないこと、家族等の役割を整理することができました。その内容を「支え合い・防災マップ」に落とし込むことで、関係者への見える化が進んでいます。

以上のような取り組みを通じて、地域の支援者が少しずつ増え、「支援の輪」が広がると同時に、防災会としての“対応力の高まり”を感じることができました。



地区防災計画、集落避難計画の見直し